

独立行政法人国際協力機構の実施する2016年度課題別研修「中南米地域 生活改善アプローチを通じた持続的農村開発 (A)」コースは11か国14名の研修員参加のもと、4週間の本邦プログラム及び1週間の在外補完研修を行いました。本邦プログラムでは様々な視察先を訪れ、日本の生活改善アプローチによる農村開発の歴史と現状について学びを深めることが出来ました。そして在外補完研修ではホンジュラスを訪れ、2集落の生活改善に関する具体的な事例視察と意見交換を通じて、多くの生活改善活動のヒントを習得しました。視察訪問、研修旅行を中心に研修の様子を報告します。

(NPO 法人イフパット 研究員 和田彩矢子／錦織紀子)

【本邦プログラム】 (2016年5月23日～6月25日)

2016年6月1日 東京都大田区 昭和のくらし博物館視察。

生活改善事業が活発に実践されていた昭和20～30年台の一般的な生活スタイルを理解するため研修員は昭和のくらし博物館を訪問。おもちゃのピアノやトースターなどの西洋文化の展示品を見た研修員から「敗戦相手国からの物資に抵抗はなかったか」の質問に対し、小泉紀子さんは「当時本当に何もなかったので貰えるものはもらった、抵抗などなかった」と返答。農水省からの移動で東京中心部をバスで見た後の訪問だったので「物が溢れる現代とは違う、当時本当に何もなかった」という館主の言葉が強く研修員の心にのこったようである。



2016年6月3日 埼玉県熊谷市 遠藤ファーム農場視察・討議

農林水産省で紹介して頂いた“農業女子プロジェクト”参加の遠藤夫妻の農場を訪問。トマト栽培と養蜂を見学。午後、“考える農家、農家の夫婦や家族の在り方”について2グループに分かれ夫婦それぞれにお話を伺った。しっかりと自分の意見を持った政子さんを前に研修員は「自国の農業女子とは天と地の差があり、意識の高さに驚かされた。政子さんのような農場女子の姿にあこがれて農業を始める女性が出てくるかもしれない」と語った。お昼には遠藤夫妻が栽培したゴボウやトマトを使ったおかずと伝統的な妻沼のいなり寿司「吟ぎん寿し」を頂き、地産地消や付加価値の重要性も習得した。



2016年6月7日 沖縄県南城市 農家レストランタルターガ訪問

元生活改善グループ員である親川園子さんのクレソン畑を見学。園子さんの息子孝也さんがコックを務めるレストランにて、自家栽培のクレソンをメインに沖縄の食材を使ったコース料理を頂いた。クレソンの混ぜご飯は特に研修員に好評であった。最後は三線、三板、ギターの演奏をバックに全員で踊り交流を深めた。



2016年6月7日 沖縄県平和祈念資料館視察

沖縄戦のすさまじさ、そこからいかに立ち上がり生活改善活動を開始したかを理解すべく、研修員は沖縄県平和祈念資料館を視察した。今年3月から展示内容の多言語化により、タブレット端末による常設展示室展示内容をスペイン語で確認できるようになっている。住民の見た沖縄戦の証言ブースでは十分な時間をかけタブレットを使い、それぞれのペースでじっくりと見学する研修員の姿があった。



平和祈念公園平和の火にて

2016年6月8日 沖縄県読谷村座喜味仲良し生活改善グループ松田敬子リーダーによる御講義

沖縄県読谷村座喜味仲良し生活改善グループのリーダーである松田氏よりお話を伺う。「グループ活動によって家族に喜ばれたことは、料理上手になったことと料理の種類が増えたこと。グループ参加者は献立や料理が良いので、家族も婦人会を推進してくれるようになった。グループ員は、ないものを一緒に補ってきた特別な仲間である」と仰っていた。



読谷村座喜味仲良し生活改善グループ（写真右端が松田敬子リーダー）

2016年6月8日 読谷村座喜味仲良し生活改善グループとの意見交換

2グループに分かれて意見交換。食生活改善、健康、お金のかからない活動についてお話しを伺った。

「いかに計画的に、そして計画通りに活動するかが成功の鍵となる。実際にやっていることを見せることで他人の理解を得られる。」と話され、実際に作成した計画表を見せて下さった。

研修員に元気の秘訣を聞かれたグループ員の方々からは「ゲートボール、たくさん笑う、家にいて家事をするだけではなく、食堂を開いて外で呼び込みをしたり、お客さんと話しをしている」と仰っていた。



我が家の長期生活設計

年齢	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85
収入	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71
支出	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62
貯蓄	18	19	20	21	22	23	24	25								
備考	70-89年経済的に苦しい時代 内容充実期															
	経済的に余裕が生まれる社会活動の生半端な時代 以 酒 斯															



真栄田悦子さん（95歳）の計画表

2016年6月9日 沖縄県元生活改良普及員知花幸子氏による学びの取りまとめ

「生活改良普及員は支援者であり指導者ではない、知識や技術があってもコミュニケーションは難しいが、指導者を育てる側の研修員から普及員への研修の充実や適性を見た上での採用の重要性についての言及にはっとした」と知花さんからコメントを頂いた。研修員からは「知花さんが実施されてきた一つ一つの活動が単なる義務を超えた愛や献身を見て取ることができた。かつて日本にとっての模範だった知花さんの仕事や人生への姿勢は、今やラテンアメリカ諸国にとってのお手本である」と知花さんへの尊敬と感謝の言葉があった。



地域住民による“もあい”とそれぞれが得意な分野を担当し、このみはらし館は建設された。

2016年6月16日 農家訪問① つくばブルーベリー園

女性一人で栽培から直売所への出荷を行っている飯田千江子さんのブルーベリー園を視察。ブルーベリー摘みを体験した。



2016年6月16日 農家訪問② 飯田種豚場



飯田吉治さんと奥様の久子さんから直売所を始めた経緯や奥様の女性農業士認定について、また養豚と野菜栽培を家族でどのように行っているかを伺った。

【在外補完研修（ホンジュラス）】（2016年6月26日～7月2日）



2016年6月27日

開発社会包摂省

Vida Mejor プログラム実践担当副大臣表敬



2016年6月27日

生活改善カンファレンス

講師 埴広域アドバイザーと JICA ホンジュラス事務所上条所長他、同国で農村開発分野で著名なパネリスト



2016年6月27日

生活改善カンファレンスにて、在外補完研修の一環であることとして今年度研修員が紹介される



2016年6月28日

アルデア・グローバル (NGO 組織) の生活改善活動視察



2016年6月28日

視察後の振り返りにおけるグループ発表

アルデア・グローバル (NGO 組織) の生活改善普及員たちも夜遅くまで同行し、研修員との意見交換で経験や課題を語ってくれた。



2016年6月29日

FUNDER (NGO 組織) 対象地域1の生活改善実践家族の視察

これまでの生活改善の取り組みを写真にまとめ、プロセスを研修員に共有してくれた。



2016年6月29日

FUNDER (NGO 組織) 対象地域 2 の生活改善実践家族の視察

対象地域 1 よりも生活基盤が脆弱な地域で、レンカ族の御家族。土の床、土の壁ではあるが、住居改善を中心に既に様々な活動に、家族全員協力しながら取り組んでいる。



2016年6月29日

FUNDER (NGO 組織) 対象地域 2 の生活改善実践家族の視察

レンカ族の皆さんは若干背が低いようで天井もやや低めに建設されている。生活改善の活動の一環として、土やほこりがおちてくることを避けるため天井にビニール布を張ったとのこと。